

福岡市ホームレス者自立支援に向けた歯科からの取り組み 第1報 2007-2009年生活・口腔内調査

○岩井 梢¹⁾、西本美恵子¹⁾、守山正樹^{1,2)}

¹⁾NPO 法人ウェルビーイング、²⁾福岡大学公衆衛生学教室

要約：福岡市内のホームレス者の生活と口腔内状況の現状把握を目的に、2007年から2009年に調査を実施した。いずれの年も現在歯数は少なく未処置歯数は多く、口腔内状況は劣悪であった。また、歯が原因で仕事・睡眠・食事に困り事がある者が多かった。治療せずに放置すると急速に咬合崩壊する危険性があり、今後、ホームレス者に対する歯科支援が重要であると考えられた。（索引用語：生活困窮者、ホームレス者、歯科支援）

口腔衛生会誌 60 (4), 2010

目的：

福岡市では以前より行政、ボランティア団体等がホームレス者の食・住・就労・健康相談等の支援は行っていたが、口腔内状況は把握されておらず、歯科支援はほとんど行われていなかった。そこで今回、福岡市のホームレス者の生活と口腔内状況の現状把握を目的に調査し、今後の方向性を考察した。

方法：

福岡市内の教会の炊き出しに来られたホームレス者を対象に、2007-2009年に「歯科相談会と歯磨き指導」を行った。対象者は、2007年3月21日は96名、2008年12月23日は50名、2009年11月3日は39名であった。調査は、生活状況や口腔内の困りごと等は問診票、口腔内状況は歯科医師の検診で行った。

結果：

1) 2007年の結果

平均年齢が高く、野宿期間が長い者が最も多かった。健康に不安を抱えている者が多く、口腔内は重篤化した未処置歯、要補綴歯が多く見られた。しかし、健康保険証がない者が多く、治療を受けられる環境ではなかった。

2) 2008年結果

雇用状態の悪化によるホームレス者の増加のため、平均年齢は低く、野宿期間は短く、勤労意欲が高い者が多かった。口腔内は、重篤化した未処置歯、要補綴歯が多かった。

3) 2009年結果

福岡市の生活保護政策が充実した結果、対象者が最も少なかった。平均年齢は最も低く、野宿期間は短く、住民登録はある者が多かった。勤労意欲が高い者は減っていた。要補綴歯数は過去2年と比べて少なく、未処置歯数は多かった。

4) 3年間のまとめ

平均野宿期間は短くなっており、住民登録、有効保険証が

ある者が増え、健康状態が悪い者は減少した。しかし、いずれの年も口腔内状況は全国平均（2005年歯科疾患実態調査）と比較すると、現在歯数、健全歯数ともに少なく、未処置歯数は多かった。

考察：

いずれの年も口腔内状況は全国平均と比較して劣悪であった。口腔内状況が悪いことによって、食べられない・眠られない、噛むことができず丸飲みして消化不良をおこし全身の健康に影響を与える、見かけが悪く職につけない、人と話さなくなる等、様々な悪影響がでることが考えられた。特に、未処置歯数や要補綴歯数が多く、このまま放置すると急速な咬合崩壊の危険性があることが示唆された。また、野宿期間が短い若年者には予防のための歯磨き指導などが必要と考えられた。以上のことから、今後ホームレス者に対する歯科保健支援が重要であると考えられた。

表1 2007年、2008年、2009年福岡市ホームレス者の実態

	2007年	2008年	2009年	歯科疾患実態調査 (2005年55-59歳男性)
相談者数	96名	50名	39名	
平均年齢	58.1歳	57.4歳	55.6歳	
平均野宿期間	39ヶ月	28ヶ月	23ヶ月	
健康状態(悪い)	23%	12%	8%	
有効保険証がある方	9%	16%	18%	
生活保護のある方	6%	4%	11%	
住民登録のある方	37%	50%	56%	
勤労意欲(強い・非常に強い)	60%	86%	39%	
食事の回数	2.1回	2.1回	2回	
歯が原因の困りごと (仕事・睡眠・食事)がある人	24%	36%	29%	
歯磨きをしている人	56%	36%	68%	93.5%
現在歯数	17.8本	18.8本	19.0本	23.7本
健全歯数	10.0本	8.0本	8.9本	13.6本
処置歯数	3.0本	4.5本	4.2本	8.7本
未処置歯数	4.9本	4.5本	5.5本	1.4本
要補綴歯数	9.3本	9.6本	6.6本	